

基礎薬学概論

[講義] 第1学年 前期 必修 1単位

《担当者名》教授/村井 毅
 教授/前田 直良
 教授/室本 竜太
 教授/高上馬 希重
 教授/浜上 尚也
 教授/小林 健一
 教授/小島 弘幸
 教授/中川 宏治
 客員教授/桂 正俊

【概要】

6年制カリキュラムにおける基礎薬学、衛生薬学及び社会薬学科目の学修意義について学ぶ。また、論理的思考とは何かを授業内容と関連づけて学修する。生命にかかわる職業人となることを自覚し、それにふさわしい行動・態度をとることができるようになるためには、医療にかかわる様々な分野の基礎的知識と技能を身につけ、生涯にわたって向上させることが必要である。6年間にわたる長期間の薬学教育における多様な授業科目、実習、演習は全てが密接に関連付けられ、系統的に分類されている。これらを意識し、積極的に学ぶことにより、卒業時には医療人としての基礎的知識・技能・態度が身につけているはずである。

本学の系統的カリキュラムを理解し、各学年で配当されている科目の位置づけを意識し、修得した知識や技能・態度を自ら関連づけ、自己の能力を高めるために、基礎薬学概論で学んだことを生かしてほしい。本講では、薬学教育における「基礎薬学」「衛生薬学」および「社会薬学」に関連する科目担当者が、多様な授業科目の概論と他の科目との関連性、医療人として業務を遂行するためにこれらの科目の基礎的知識や技能・態度がどのように関連づけられているのかを身近な事例や薬学のこれまでの歴史や将来性などをふまえ、わかりやすく解説し、6年間の学修の流れを理解する。

【学修目標】

薬学6年制カリキュラムにおける基礎薬学、衛生薬学及び社会薬学科目の学修意義を説明できる。

論理的思考とは何かを授業科目と関連づけて説明できる。

医療の担い手として、常に省察し、自らを高める努力を惜しまず、利他的に公共の利益に資する行動を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	教育課程編成・実施の方針 学位授与の方針 薬学教育支援室について	<p>薬学部の教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）及び学位授与の方針（ディプロマポリシー）を概説できる。</p> <p>薬剤師として求められる基本的な資質・能力を説明できる。</p> <p>基礎薬学科目等の学修意義を説明できる。</p> <p>論理的思考とは何かを授業科目と関連づけて説明できる。</p> <p>生命・医療に係る倫理観を身に付け、医療人としての感性を養い、様々な倫理的問題や倫理的状況において主体的に判断し、プロフェッショナルとして行動する。</p> <p>医療の担い手として、常に省察し、自らを高める努力を惜しまず、利他的に公共の利益に資する行動をする。</p> <p>医療の担い手として、必要な知識・技能の修得に努め、自身の職業観を養い、生涯にわたり学び続ける価値観を形成する。</p> <p>薬剤師の使命に後進の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるよう努める。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム B-1-1 1) ~ 4)</p>	前田 直良
2	薬学の歴史	<p>薬学がどのようにして人類の歴史の中で形成されてきたかを概説できる。生薬など天然物由来医薬品が医療の歴史の中でいかにして利用されてきたかを概説できる。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム C-5-1 1), C-5-2 2)</p>	高上馬 希重

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
3	薬学と創薬	<p>薬学部で有機化学を学ぶ意義、及び薬剤師が持つべき有機化学的知識の重要性を理解し、説明できる。 天然物由来医薬品の創薬研究において、有機化学がどのように貢献してきたかについて、具体例を挙げて説明できる。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム C-3-3 1)2), C-5-2 2)</p>	小林 健一
4	物理系薬学 - 薬学で学ぶ分析技術とその応用 -	<p>創薬および医療現場において必要となる分析法の概要および応用例について説明できる。 衛生学領域（栄養、環境、中毒など）における分析技術の応用および薬剤師の役割について概説できる。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム C-2-1 1), C-2-7 1)～3)</p>	村井 毅
5	生物系薬学 (1)	<p>薬学における生物系科目の役割と意義、他分野の科目との関連性について説明できる。 基本的な生体物質（糖質、脂質、タンパク質、核酸）の構造や性質について概説できる。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム C-6-1 1), C-6-4 1)～3), C-6-5 1)2)</p>	中川 宏治
6	生物系薬学 (2)	<p>微生物（細菌、ウイルスなど）の構造や特性について概説できる。 生体防御機構である免疫システムについて概説できる。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム C-6-3 1)～4), C-7-9 1)2)</p>	室本 竜太
7	衛生化学	<p>衛生薬学、衛生化学が対象とする化学物質の範囲と健康との関連性、予防への貢献について概説できる。 水溶性ビタミンと脂溶性ビタミンの違いについて概説できる。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム E-2-1 1)～3), E-2-2 1)～3)</p>	浜上 尚也
8	公衆衛生学・環境衛生学	<p>健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。 現代における感染症の特徴について説明できる。 地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。 「健康と環境」における薬剤師の役割について概説できる。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム E-1-1 1)～4), E-3-2 1)～3)</p>	小島 弘幸
9	毒性学	<p>薬物乱用の実態やその問題点を学び、薬剤師としての役割について概説できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乱用薬物の種類と健康障害 2. 大麻の作用機序 3. 市販薬のオーバードーズ問題 4. 危険ドラッグ成分の検出法 <p>以上の内容についてレポートを課す。</p> <p>関連するモデル・コア・カリキュラム</p>	小島 弘幸

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		E-3-1 1)~4), E-3-2 1)~3)	
10	特別講演	将来の薬剤師のために、様々な職種がどのように関連するかについて学ぶ。 講義内容について、課題レポートを課す。 関連するモデル・コア・カリキュラム B-1-1 1)~4)	桂 正俊

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（筆記試験）80%、レポート内容（到達度）20%により評価する。

第3、4、5、6、7および8回の授業内容の学習到達度を確認するための定期試験を課す。

第9回、第10回の授業内容の学習到達度を確認するためレポートを課す。

【参考書】

薬学総論（スタンダード薬学シリーズ -1）：日本薬学会編 東京化学同人（旧カリ版）

薬学概論 高島英伍著 廣川書店

新・薬学概論 廣部雅昭・山崎幹夫著 廣川書店

薬学概論 村田敏郎監修 南山堂

薬学教育シラバス

【備考】

配付資料

【学修の準備】

シラバスを参考に、教科書や参考書およびインターネットなどで事前に講義内容に関連する項目の調査を行っておくこと（50分）。

復習は、教科書、配布資料、講義メモ等を活用し、これから学ぶ基礎薬学関連科目について理解を深めること（50分）。

【関連するモデル・コア・カリキュラム】

B-1-1 薬剤師に求められる倫理観とプロフェッショナリズム 1)~4)

B-1-3 薬剤師の社会的使命と法的責任 1)~3)

B-4-2 医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保と薬害の防止 3)

C-2-1 分析方法の基礎 1)

C-2-7 医療現場における分析法 1)~3)

C-3-3 有機化合物の基本構造と反応性 1)2)

C-5-1 生薬学・天然物化学の基礎 1)

C-5-2 天然由来医薬品各論 1)2)

C-6-1 生命の最小単位としての細胞 1)

C-6-3 微生物の分類、構造、生活環 1)~4)

C-6-4 生命活動を担うタンパク質 1)~3)

C-6-5 生体エネルギーと代謝 1)2)

C-7-9 リンパ系と免疫 1)2)

E-1-1 環境要因によって起こる疾病の予防と健康被害の防止 1)~3)

E-2-1 食品機能と疾病の予防・治療における栄養 1)~3)

E-2-2 健康をまもる食品衛生 1)~3)

E-3-2 生活環境・自然環境の保全 1)~3)

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

1. 医療人として求められる高い倫理観を持ち、法令を理解し、他者を思いやる豊かな人間性を有する。

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。

【実務経験】

(2026年度・薬学部)

小林 健一 (製薬企業において創薬研究に従事)

【実務経験を活かした教育内容】

薬剤師の役割について、実務経験を活かして講義する。
創薬研究における有機化学者の役割について、実務経験を活かして講義する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している